

ご挨拶

この度の東日本大震災により被災されました方々に、心よりお見舞い申し上げます。被災地の一日も早い復興を心より祈念致します。

弊社は1875年(明治8年)の創業より「科学技術で社会に貢献する」を社是に、経営理念である『「人と地球の健康」への願いを実現する』ことをめざして事業展開して参りました。特にこの医用画像診断の分野では、近年の画像技術の進歩はめざましく、弊社が注力しているX線画像診断装置においても、2003年のフラットパネルディテクタ(以下FPD)の発売によりまさに新たな時代が始まったと言っても過言ではありません。透視と撮影の統合、歪みが無い広い有効視野・高感度・薄型というこの新しい検出器は更なる高解像度・被ばく線量の低減を可能にし、大規模病院や地域の基幹病院から順次導入されて参りました。お陰をもちまして、島津のFPD搭載画像診断装置は、「高画質」・「低被ばく」が評価され、現在国内では約750台、全世界で約1000台が稼働するに至り、診断・治療に貢献できたと実感しております。

『New Values for a New Tomorrow』。昨日とはちがう新しい明日へ。

これが島津製作所の新しいテーマです。私どもの製品やサービスが新たな価値を生み出すことで、より良い明日に貢献したいとの思いをこめた次第です。撮影・透視が中心であったX線画像診断機器はFPDを得て新たな臨床価値を創造しています。この歪みが無く高精細という検出器の特性を活かし、独自のデータ処理を施すことで新しい検査画像を作成することができます。例えばトモシンセシスという撮影手法は、金属アーチファクトの影響を受けにくく、高精

細に患部の状態を観察することができるため、多くの整形外科領域のお客様から高く評価いただいております。また、FPDの特性を活かして密封小線源を用いた治療計画の支援や放射線治療時の動体追跡への応用も期待されております。今後も継続してこのような新たな臨床付加価値を提供する独自のアプリケーションの開発を鋭意進め、整形外科領域や放射線治療領域へと対象診療科を拡大させてX線診断装置の有効活用を図る所存でございます。

また、可搬型FPDの普及に伴い汎用型X線TV装置や一般撮影装置へのFPD搭載についても積極的に推進し、FPDを搭載したX線診断装置の商品ラインナップを充実させ、大規模病院のみならず小規模病院やクリニックのDR化を促進して参ります。

昨年6月には新医用工場が竣工しました。この新工場では生産技術・品質保証・サービス・リモートメンテナンス部門を集結させ、お納めた製品の品質を長期に渡って確保し、診療業務のトータルコストの低減を目指しております。

多くのご施設様がより質の高い医療サービスを効率よく提供いただけるように、診断に適した検査画像の提供、業務フローの効率化、各種医療情報システムの連携、機器の保守や最新の医療情報の提供など様々なサービスにより「新しい価値」を創造すべく、これからも新たな挑戦をして参ります。今後ともご支援ご愛顧のほどよろしくお願い致します。

株式会社 島津製作所
取締役 医用機器事業部長

鈴木 悟

